

日銀の視点

ある週末、県内でいつものように地元のラジオ放送を聞きながら車を運転していると、お金のことが話題になっており、「日銀って見学できるんですかね？」という問いかけが耳に入ってきた。その場ではお伝えできなかったが、「できますよー」と心の中で叫んでいた。私どもの水戸事務所は見学をお受けできる設備などを有していないが、東京・日本橋にある本店では、国の重要文化財に指定されて

日銀水戸事務所長 上野 淳

「お金の歴史」学べます

いる本館（地下金庫、旧営業場、展示室）を、ガイドの解説付きでご案内している（無料。月一金のみ。要予約）。本館から道路一本隔てた反対側には貨幣博物館を設けている。貨幣や、貨幣に関する

ただけると、音声ガイドを聞くことができ、お勧めだ。同博物館では、企画展などもしばしば開催している。現在は、日銀創設140周年に合わせて「水辺の風景と日本銀行―日本橋川と中央銀行誕

国のナショナルバンク制度をモデルとした銀行制度を導入することとなった（国立銀行条例）。この制度の下で、全国に153の国立銀行が設立され、紙幣を発行した。ちなみに「国立銀行」は「ナショナルバンク」の邦訳だが、民間の銀行である。国立銀行の多くは、順調に業績を伸ばし、地域経済の振興に貢献したほか、扶善会（全国銀行協会の前身）や第一国立銀行による銀行のネットワーク化も進展した。もっとも、一部の国立銀行の貸し出し焦げ付きが国

立銀行発行紙幣の信用を傷つける懸念などの問題もあった。こうした中、日本銀行を設立して、国立銀行との間でコルレス（預金の預け合い）取引を通じたネットワークを形成するとともに、日銀が紙幣の一元的な発行を行っていくこととなった。本企画展では、日銀が誕生するまでの歩みを、日本橋川沿いを描いた錦絵と共に紹介している。

今回ご紹介した本店見学、貨幣博物館のほか、オンラインでの本店見学なども提供している。日銀ホームページでご確認いただくと幸いです。（次回は12月10日掲載）

歴史的、文化的な資料を公開しており、お金の歴史を学ぶことができる（入館無料）。こちらは土日祝日も開館（月曜休館）しているほか、20人以上の団体を除き予約不要。スマホとイヤホンをお持ちい

生までのあゆみ」を開催している（12月4日まで）。日銀は1882年10月、日本橋川の水辺の日本橋箱崎町で開業した。明治初期、政府は、産業振興と国家財政の基盤整備のため、議論の末、米